

での個人寄附についての確定申告用領収証が届いていますのでご寄附頂いた方にお渡しします。お渡しするものは、領収書と証明書の写しと説明書の3枚です。

委員会報告

親睦活動委員会

植田英明委員長

・8月1日会員家族会の出欠表を回覧します。企画色々ございます。参加よろしくお願ひします。

しょうわ会

松本 哲しょうわ会会長

・8月23日(木)夜に行いますしょうわ会の出欠表を回覧します。たくさんのご参加お待ちしております

ガバナー公式訪問



国際ロータリー第2640地区

北中登一ガバナー

上田俊夫代表幹事

廣本喜亮ガバナー補佐

プログラム



『ガバナーアドレス』

国際ロータリー第2640地区

北中登一ガバナー

ご挨拶申し上げます。田辺RCにお伺いするのは初めてですが、私が最初に、青少年交換委員に任命されましたのが、今は亡き 榎本長平PDGです。当時の青少年交換委員長は和歌山東RCの嶋さんでした。

この時に青少年交換事業のノウハウを勉強させていただきました。もう時効なので言えますが、当時榎本長平PDGは、嶋さんは何の連絡もなく勝手に活動している、困るなあ。とつぶやいておられるのを時々耳にしました。この時私は、なるほど、委員長というものは絶えずガバナーに連絡して、過不足のないようにするんだなあと勉強させていただいたのです。榎本氏がガバナーをされたのが、1989～1990年、当時私は、松原RCの会員でした。ガバナー訪問は、1989年の9月26日でした。紀州の果てからわざわざ河内の地までお越しいただいた訳ですが、榎本PDG曰く、松原RCのお陰でこんな辺鄙なところまで

来ることができたが、生涯でもう二度と来ることはなからうと言って、ガバナー訪問を終えられたのです。然るにどんな因縁のなせるわざでしょうか、もうガバナーとしての任務を終えられる土壇場になり頭をかきかき、再度松原RCを訪問されることになったのです。まさか榎本年度に新クラブなどできないと思ってらしたのでしょうか、松原RCから松原中RCが誕生したのです。私達からいえば、紀州の片田舎から出てこられた親父という感がありました。憎めない人でした。いやとても好感のもてる方でした。田辺に岩出RCの和田先生とお邪魔した時も、下駄ばきで歓待して頂きました。その次の出会いは、吉田 透会員でした。一時青少年交換委員として活躍頂きました。県立田辺高校との繋がりを作っていただき、田辺と言えば吉田さん、吉田さんと言えば田辺RCとなりました。そしてこの吉田さんが村上年度の代表幹事としてご活躍、懐かしい限りであります。勿論、村上年度では村上PDGの薫陶を受けたことはいまでもありません。

私は耳鼻科医となる決心をしたのが昭和39年、ちょうど東京オリンピックの年、新幹線が開通した時でした。丁度高度成長期に入り、交通地獄の先駆けとなる年でした。医学にも流行があり、当時、医学生は猫も杓子も脳外科か整形外科に進んだものです。そんな折、何故耳鼻科医になろうと決断したのか、それなりの理由があるのですが、ここでは触れません。孔子は「50にして天命を知る」と申しましたが私は23歳にして、天命を知ることになります。爾来ふつうは人事を尽くして天命を待つと言いますが、私の場合は、天命を知って人事を尽くすことになるのです。ロータリーでは「職業奉仕」が奉仕の基盤となっております。宗教改革を行ったマルチン・ルターは、ヘブライ語で書かれたバイブルをドイツ語に翻訳するのですが、この時「天職義務」という考えを打ち出したのです。何故職業奉仕をvocational serviceと言うのか、それは、ドイツ語で天職はBerufといい、これを英訳するとcalling,そしてvocationとなったのです。これらの言葉には神に仕えるという宗教的な意味合いがあり、従って、職業というものは元々神様から与えられた使命で有る。従って神から与えられ、使命である職業に精一杯働き続けることが、取りも直さず神の救いに予定されていることの確かな証である、と考えたのです。解釈は兎も角、耳鼻科医として微力ながら、患者のために尽くしてきたつもりです。専門は「めまい」で、中々難しい領域ですが、それなりに面白さもあるのです。「寝耳に水」と言いますが、寝ている人の耳に水を入れますと「めまい」が一時的に生じます。びっくりして跳び起きるってなわけです。

今年のRI会長は、2770地区からの田中作次氏、RIのテーマは「奉仕を通じて平和を」です。私はもう一度、ロータリーを見直すべきではないかとの考えから、「ロータリーの原点を見直そう」と副題を付けました。この一年間、皆様と共に行動し、実りある一年にしたいと思ひます。宜しくお願ひします。

